

論文審査の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|------|---|---|---|---|
| 報告番号 | ※ | 乙 | 第 | 号 |
|------|---|---|---|---|

氏 名 神谷 徹

論 文 題 目

SUITABILITY OF SURVEILLANCE COLONOSCOPY FOR PATIENTS
WITH ULCERATIVE COLITIS TO DETECT COLORECTAL CANCER:
CURRENT GUIDELINES MISS SOME EARLY-STAGE CASES

(潰瘍性大腸炎患者の結腸直腸癌を見つけるためのサーベイランスコロノスコ
ピーの適合性：現在のガイドラインではいくつかの早期症例を見落とす)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

柳野 正人



委員

名古屋大学教授

小寺 泰弘



委員

名古屋大学教授

中村 宗男



指導教授

名古屋大学教授

後藤 秀実



論文審査の結果の要旨

今回、潰瘍性大腸炎（UC）関連大腸癌の治療を受けた患者を retrospective に評価し、サーベイランスコロノスコーピー（SC）の既存のガイドラインが UC 患者において進行した大腸癌の発生を防止するのに適当か否かを検討した。25 例の UC 関連大腸癌患者のうち 15 例は分化型腺癌で、10 例は非分化型癌であった。分化型腺癌では 2 年以下の間隔の SC を受けた患者の 100%が Stage 0～II で発見された。一方、非分化型癌では 1 年以内に SC を受けた患者では 100%が Stage 0～II で大腸癌が発見されたが、1～2 年の間隔では 40%であった。これにより 2 年間隔の SC が分化型腺癌では十分だったが、非分化型癌を有した患者には十分でなかったことが示された。また今回の研究では 25 例の患者のうちの 20%の 5 例が UC 発症後 8 年以内に大腸癌を発症しており、既存のガイドラインでは十分ではないことが示された。以上より、UC 患者に対する SC の適切なガイドラインの作成が必要と考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 一般的な大腸癌の平均年齢が 60 歳台後半であるのに対して、本研究の大腸癌患者の平均年齢は 49.7 歳と比較的若年発症であった。これはもともと UC の発症年齢が 20 歳台と若く、罹病期間によって（10 年で 2%、20 年で 8%、30 年で 18%）高率に大腸癌が発生するからと考えられた。
2. 一般的に UC 関連大腸癌は通常の大腸癌よりも予後が悪いと言われる。これは、UC 関連大腸癌では非分化型癌の割合が多いためと想定される。通常の大腸癌では非分化型癌の割合は十数%であるのに対して、UC 関連大腸癌では本研究や諸家の報告でも非分化型癌が 40%前後とされている。
3. 現在の国内外のガイドラインでは、UC 発症 8～10 年以内の患者には SC が必要ないとされているが、本研究においては発症 8 年以内に大腸癌を発症した患者が 20%もいた。これは実際の UC 発症年齢が医療機関を受診し、推定された年齢よりも若かった可能性がある。SC を行うにあたっては、少しでも症状が出たと思われる時期を発症年と考えて行う必要があると考えられた。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|--|------|------------------|----|------|
| 報告番号 | ※乙第 | 号 | 氏名 | 神谷 徹 |
| 試験担当者 | 主査 | 柳野 正人 小寺 泰弘 中村 務 | | |
| | 指導教授 | 後藤 秀司 | | |
| <p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 潰瘍性大腸炎（UC）関連大腸癌の年齢について 2. UC関連大腸癌が通常の大腸癌と比べて予後が悪いことについて 3. 本研究においてUC発症8年以内に大腸癌を発症した患者が20%もいたことについて <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p> | | | | |

別紙 3

学力審査の結果の要旨および担当者

| | | | | |
|------------------|------|---------|-------|-------|
| 報告番号 | ※乙第 | 号 | 氏 名 | 神谷 徹 |
| 学 力 審 査 担 当 者 | 主 査 | 柳野 正人 | 小 寺 弘 | 中 村 新 |
| | 指導教授 | 後 藤 秀 実 | | |

(学力審査の結果の要旨)

名古屋大学学位規程第 10 条第 3 項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。